



TechFirm

テックファームホールディングス株式会社

2026年6月期 中間期
決算説明資料

2026年2月13日

東証グロース(3625)

目次

1. ハイライト	P. 3
2. 決算概要(2026年6月期 中間期)	P. 5
3. セグメント別決算概要(2026年6月期 中間期)	P. 9
4. 業績予想(2026年6月期)	P. 16
5. APPENDIX	P. 19



ハイライト

業績ハイライト(連結)

増収・減益

売上高

3,351 百万円
YoY 5.6%↑

営業利益

306 百万円
YoY Δ 14.8%↓

経常利益

319 百万円
YoY Δ 13.3%↓

親会社株主に帰属する中間純利益

190 百万円
YoY Δ 12.8%↓

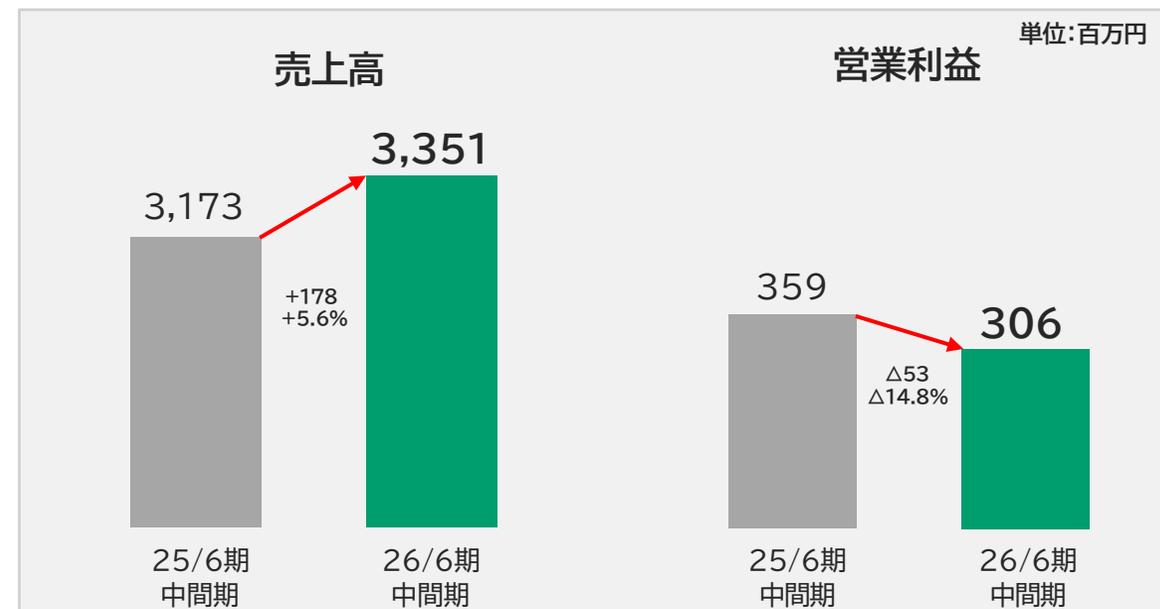
(注目点)

売上高は前年同期比+5.6%と堅調に推移

中長期の成長に向けた投資進行中、今期の利益減少は織り込み済み

(要因)

- ・ICTソリューション事業は、プロジェクト進捗管理が定着し、安定的に収益を確保
- ・各セグメント共に新規案件獲得に向けた営業活動を積極的に展開中





決算概要 (2026年6月期 中間期)

売上高及び段階利益

増収・減益

【ICTソリューション事業】 増収・減益

既存案件の拡大により売上高は順調に推移、プロジェクトの安定化により収益を確保できる体制定着
中長期的な成長への戦略的な投資(教育及び開発業務への生成AI活用)を実施

【クロスボーダー流通プラットフォーム事業】 減収・減益

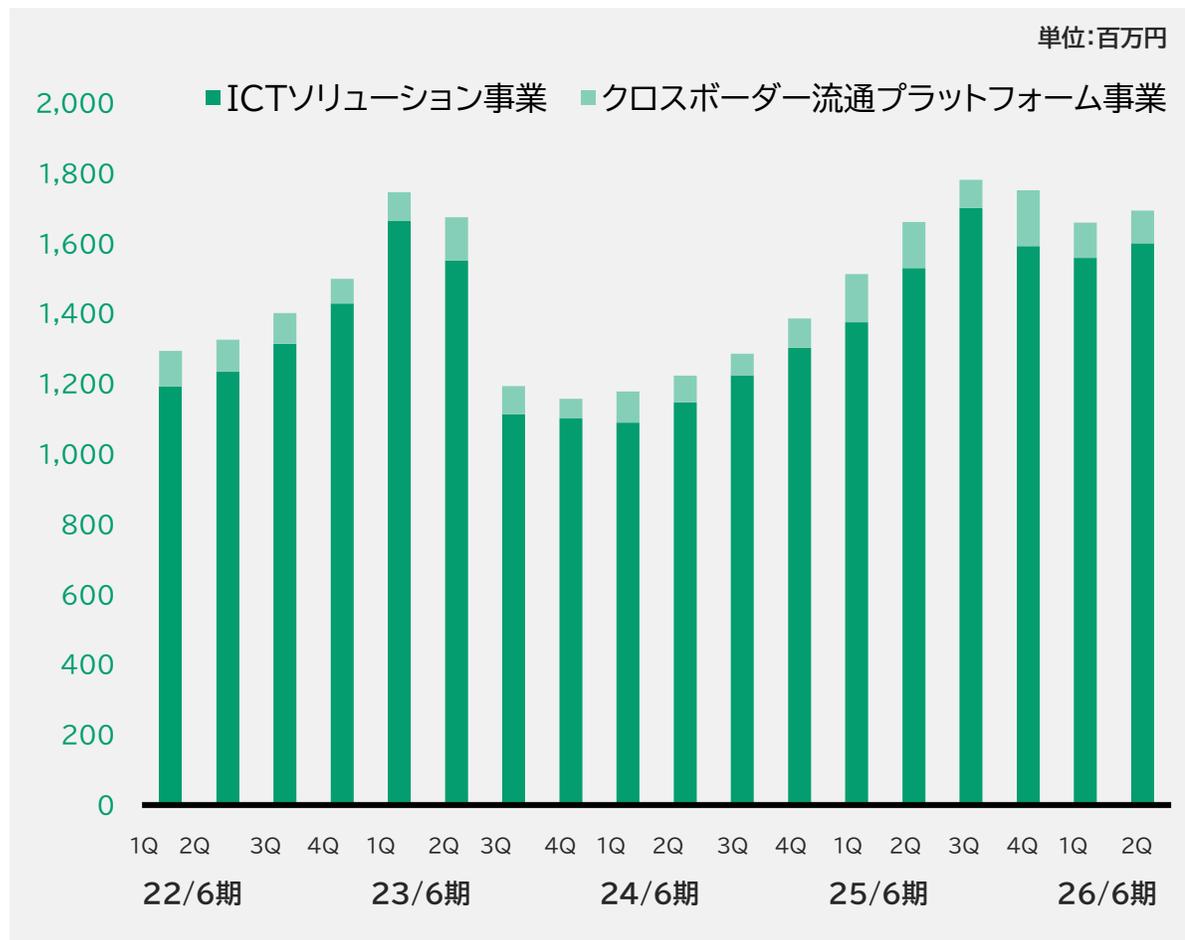
戦略的な顧客ポートフォリオの再構築による売上減少、中長期的な成長に向けた活動は想定通り進展
デジタル(EC、SNS)とリアル(直営店)を融合させたハイブリット・プロモーションの強化により、EC等のデジタル
プラットフォームへの誘導・販売訴求は順調に伸長

単位:百万円

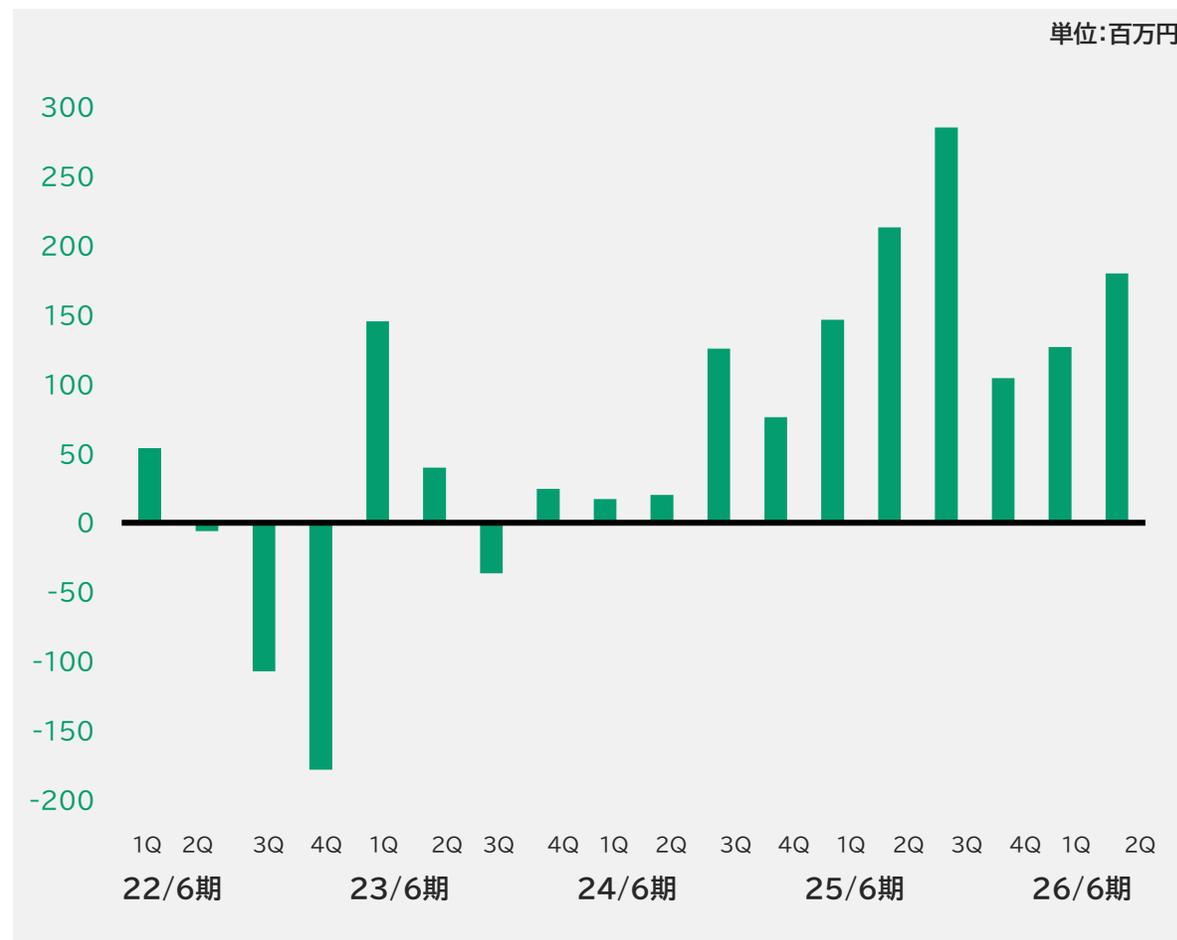
	25/6期 中間期	26/6期 中間期	増減率 (前年同期比)	増減額 (前年同期比)
売上高	3,173	3,351	+5.6%	+178
営業利益	359	306	△14.8%	△53
営業利益率	11.3%	9.1%	—	△2.2 pt
経常利益	368	319	△13.3%	△48
親会社株主に帰属する 中間純利益	218	190	△12.8%	△27

四半期 業績推移(売上高及び営業利益)

売上高 売上進捗率は計画通り推移



営業利益 安定的に利益確保できる体制が定着



連結貸借対照表

着実な利益の積み上げにより、自己資本比率は50%超を維持

単位:百万円

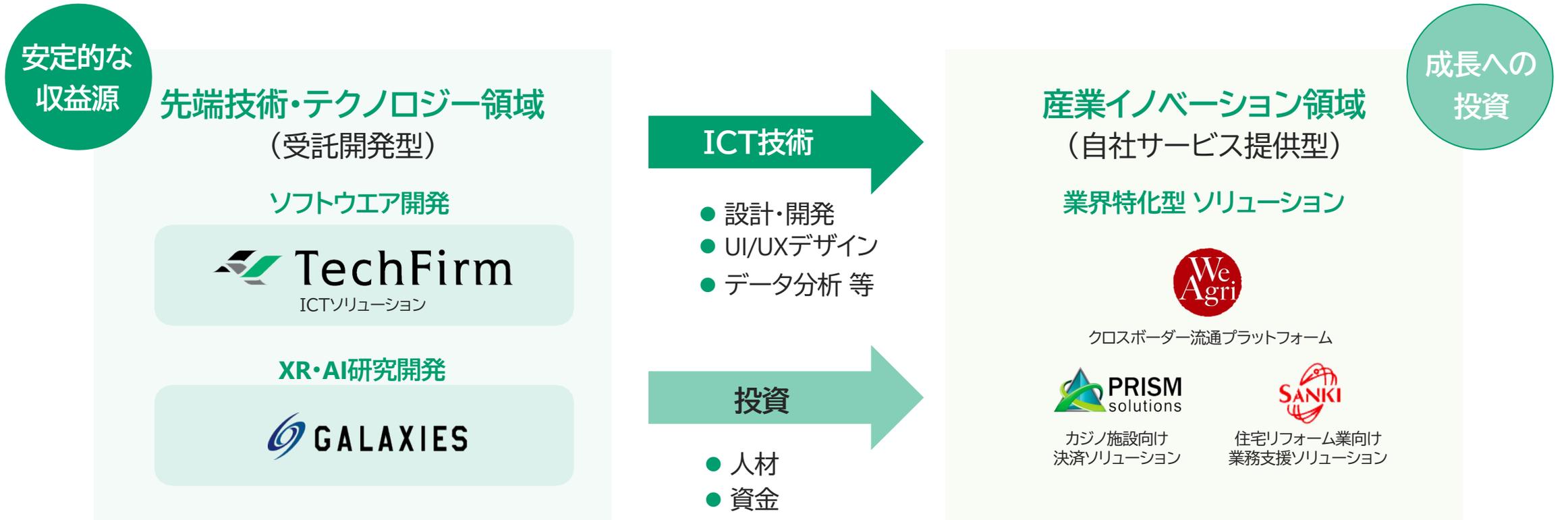
	25/6期 期末	26/6期 中間期	増減額 (前期比)		25/6期 期末	26/6期 中間期	増減額 (前期比)
流動資産合計	4,482	4,414	△67	流動負債合計	1,717	1,531	△185
有形固定資産	40	47	+6	固定負債合計	527	526	△1
無形固定資産	5	3	△1	負債合計	2,244	2,057	△187
投資その他の資産	430	447	+16	株主資本合計	2,732	2,866	+134
固定資産合計	476	498	+21	その他の包括利益 累計額合計	△13	△6	+6
繰延資産	4	3	△0	純資産合計	2,718	2,859	+141
資産合計	4,963	4,917	△46	負債純資産合計	4,963	4,917	△46



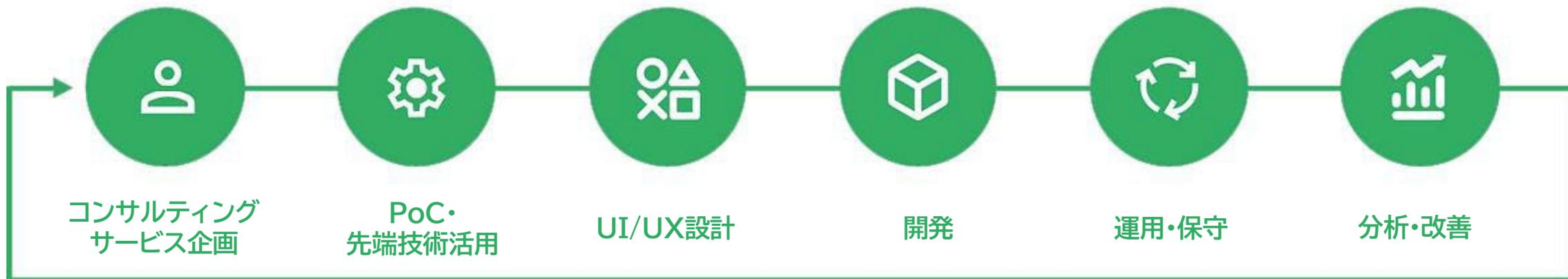
セグメント別決算概要 (2026年6月期 中間期)

セグメント概要:全体像

安定的な収益源である先端技術・テクノロジー領域(受託開発型)で蓄積した開発実績・ノウハウを成長への投資と位置付ける産業イノベーション領域(自社サービス提供型)へ投資し、さらに事業を拡大



プライムバンダーとして顧客ニーズをダイレクトに把握
「企画」「開発」「運用」の専門家が次世代の最新技術やトレンドを駆使し、全ての領域をワンストップサービスで提供



新技術を探求できる技術力

先駆者のいない未知の技術であっても、調査・検証等を経て紐を解き、サービスに活用できる状態を目指す探求心と技術力を保持



目的や効果を重視したプロジェクト運営

現状の業務や課題に対しどのような効果をもたらすかを確かめながらプロジェクトを進行、課題に対し企画提案から支援可能



シームレスな全体最適が可能

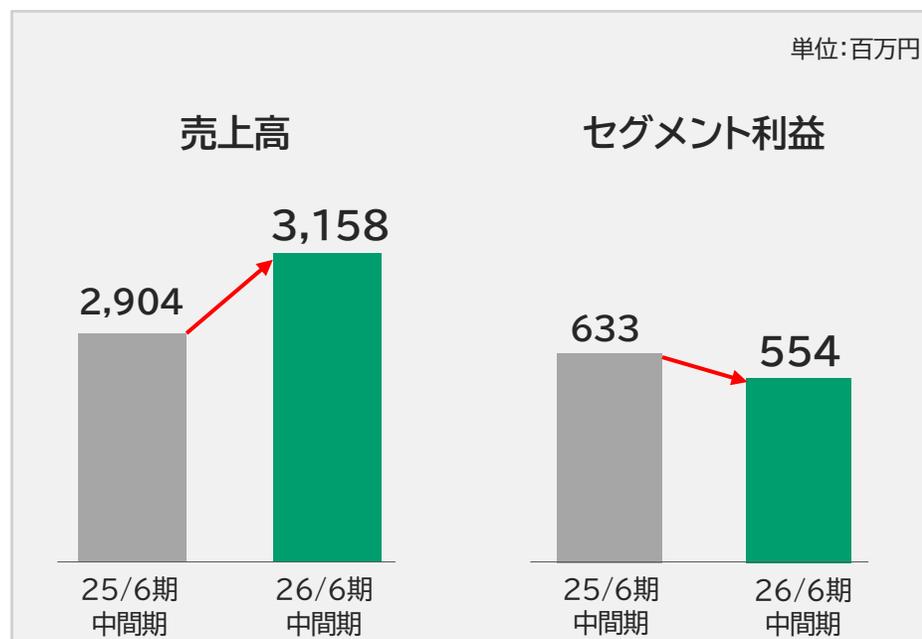
部分的な機能の開発ではなく、既存システムとの連携、サービスや業務全体を考慮したシームレスなUI設計・開発が可能

決算概要 : ICTソリューション事業

増収・減益

単位:百万円

	25/6期 中間期	26/6期 中間期	増減率 (前年同期比)	増減額 (前年同期比)
売上高	2,904	3,158	+8.7%	+253
セグメント利益	633	554	△12.5%	△79
セグメント利益率	21.8%	17.5%	—	△4.3pt



要因・その他

【増収】

- ・ 既存案件の売上拡大により売上高は想定通り推移
- ・ 先端技術を活用した新規案件の獲得に向けた営業活動を継続

【減益】

- ・ プロジェクト進捗管理を継続し、安定的に収益を確保できる体制が定着
- ・ 先端技術の習得や開発体制の構築など、中長期的な成長へ向けた戦略的な投資を継続し、短期的に利益率低下

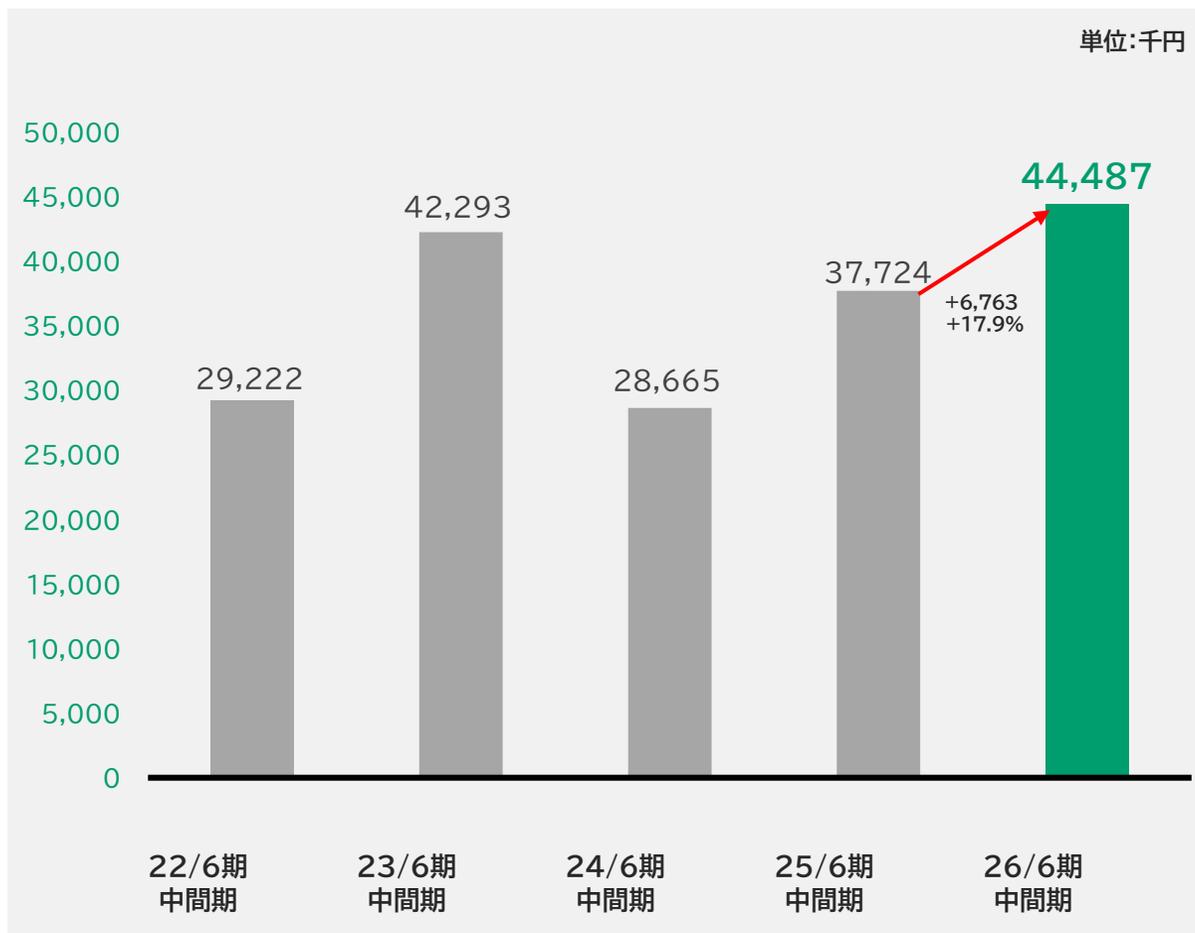
【先端技術(AI x システム継承)】

- ・ 各企業の老朽化した基幹システムの継承や刷新を支援するサービス「RescueTech」(レスキューテック)の提供を開始

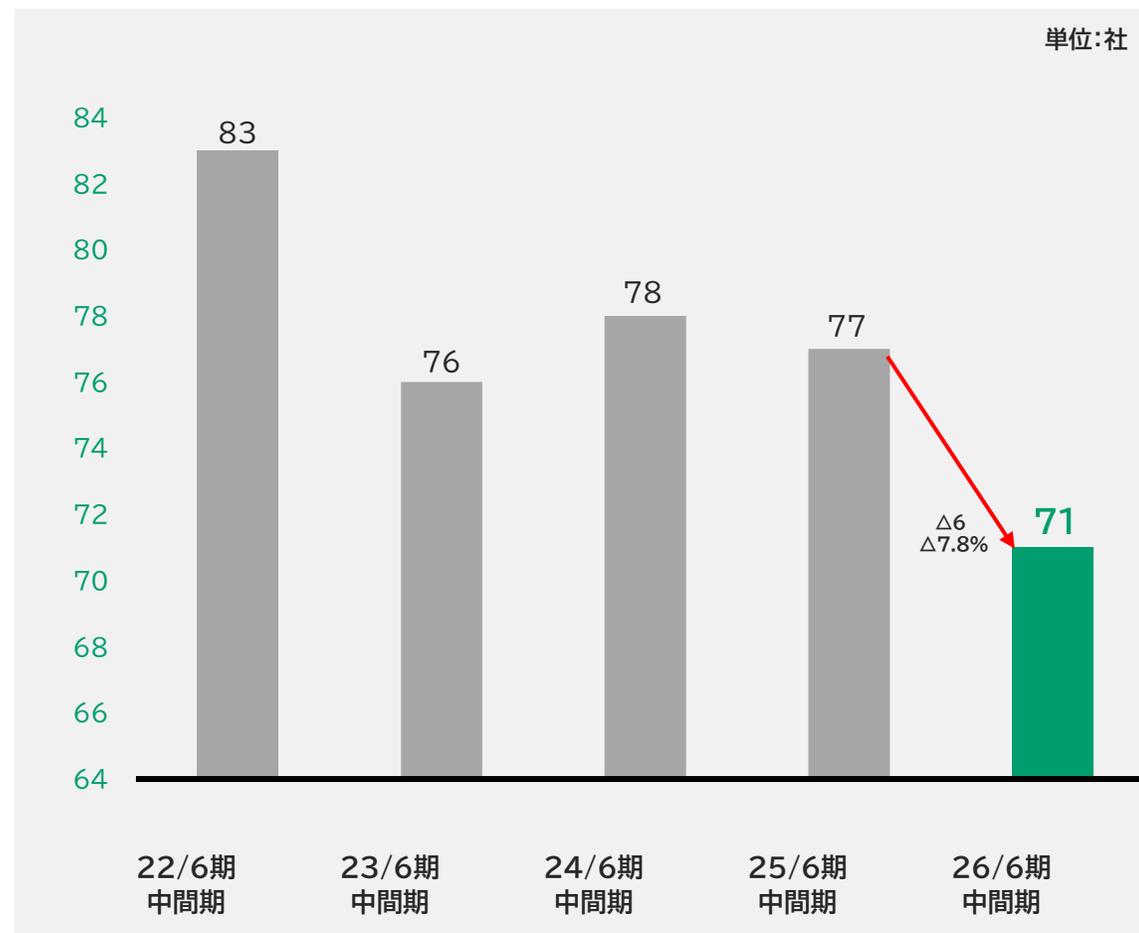
売上指標の推移 : ICTソリューション事業

既存顧客の深耕により大型開発案件の受注が順調に推移し、顧客単価は+17%上昇
事業パートナーとしての新規顧客獲得を強化し、売上拡大を狙う

顧客単価



顧客数



クロスボーダー流通プラットフォーム事業

日本企業の強みを東南アジア市場で最大化するための“成長支援パートナー”として「調査」「デジタルマーケティング」「ECプラットフォーム」「データ分析」まで、ビジネスの「創出」から「定着」まで一貫してサポート

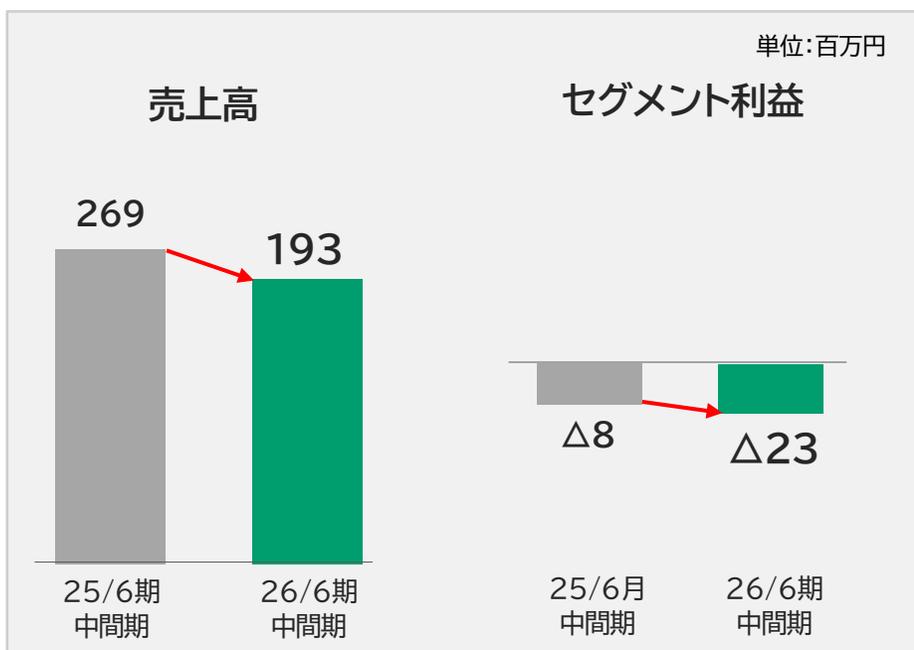


決算概要 : クロスボーダー流通プラットフォーム事業

減収・減益

単位:百万円

	25/6期 中間期	26/6期 中間期	増減率 (前年同期比)	増減額 (前年同期比)
売上高	269	193	△28.2%	△75
セグメント利益	△8	△23	—	△15
セグメント利益率	—	—	—	—



要因・その他

【減収・減益】

- ・ 案件規模、採算を重視した顧客ポートフォリオの再構築を戦略的に推進
中長期的な成長基盤の構築に向けた活動を継続
- ・ デジタル(EC、SNS)とシンガポールのリアル(直営店)を融合させた販売プロモーションの強化により、デジタル売上は順調に伸長

【投資継続】

- ・ (株)ディーエムエスとの業務提携による物流・EC・プロモーション・デジタル技術を一本化した高付加価値なサービスの提供をスタート
- ・ AI技術を活用したデジタルプラットフォームを拡充し、アジア進出を目指す企業を強力サポート



業績予想 (2026年6月期)

業績予想(全社)(2026年6月期)

業績予想 変更なし

売上高: 今後の成長につながる顧客及び事業パートナーの獲得に向けた営業活動を継続

投資: 中長期の成長へ向けた戦略的な投資、及びクロスボーダー流通プラットフォーム事業への投資継続

	25/6期 実績	26/6期 (予想)	26/6期 中間期 進捗率	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
売上高	6,705	7,200	46.6%	+7.4%	+494
営業利益	749	600	51.1%	△19.9%	△149
営業利益率	11.2%	8.3%	—	—	△2.8pt
経常利益	761	580	55.1%	△23.8%	△181
<small>親会社株主に帰属する</small> 当期純利益	501	330	57.6%	△34.2%	△171
年間配当(円)	8	8	—	0	0

業績予想(セグメント別)(2026年6月期)

単位:百万円

		25/6期 実績	26/6期 (予想)	26/6期 中間期 進捗率	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
ICTソリューション 事業	売上高	6,197	6,600	47.9%	+6.5%	+402
	セグメント利益	1,320	1,150	48.2%	△12.9%	△170
	セグメント利益率	21.3%	17.4%	—	—	△3.9pt
クロスボーダー流通 プラットフォーム 事業	売上高	508	600	32.2%	+18.0%	+91
	セグメント利益	△50	△10	—	—	+40
	セグメント利益率	—	—	—	—	—



APPENDIX

上期TOPICS (ICTソリューション事業)

先端技術分野の新たなサービス創出の事例

「システム継承 x AI」 システム保守支援サービス『RescueTech』*

長期運用システムの属人化・複雑化・老朽化した基幹システムの継承や刷新などに際し、従来多大な工数を要してきたシステム把握の課題をAIが代替・支援することで大幅に効率化

*『RescueTech』(レスキューテック)サービス概要
<https://www.techfirm.co.jp/rescuetech>



同サービスの導入事例「昭文社 ことりっぷ」2025/10/21
<https://www.techfirm.co.jp/news/20251021>

「産業ドローン x AI」 新たな映像体験サービス

アミューズが挑む新たなエンタメ体験の創出を当社技術で支援
ドローンの自律運航システムやAI編集技術をPoCにて提供
今後は、観光、エンタメ、防災、インフラ点検、環境モニタリングなど
幅広い領域への活用可能な社会実装モデルの構築を目指す



同サービスのPoC事例 2025/12/18
<https://www.techfirm.co.jp/news/20251218>

上期TOPICS (クロスボーダー流通プラットフォーム事業)

新たなサービス創出・先端技術を駆使したシステム強化

越境EC・物流・先端技術を融合した 「海外向け販売促進サービス」

(株)WeAgri、(株)ディーエムエス、テックファーム(株)の3社が業務提携それぞれの強みを活かした高付加価値なサービス提供が可能な体制を構築、アジア諸国への展開を見据えた取り組み

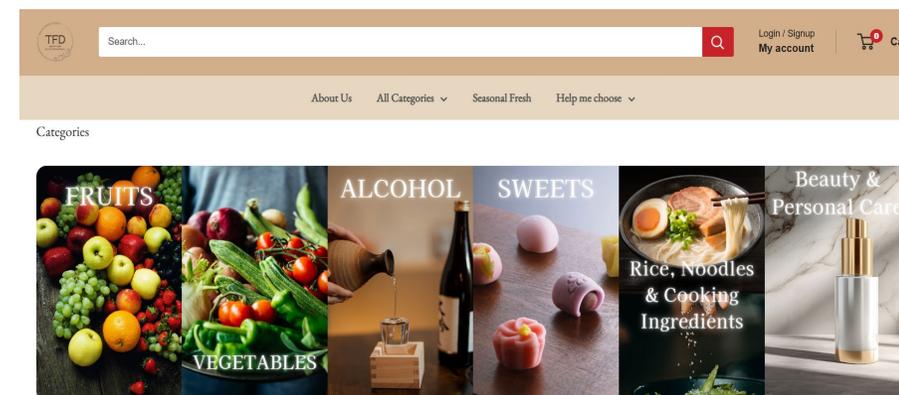


同業務提携 2025/12/1
<https://weagri.jp/news/20251201>

越境ECサイト『TokyoFreshDirect』*内で 商品プロモーションにAI技術を活用

プロモーションを強化する多言語コンテンツを生成AIで自動生成ショート動画で視覚に、海外利用率の高いpodcast風の音声コンテンツで聴覚に訴え、“読み飛ばされない”商品ページを実現

*海外向けECサイト『TokyoFreshDirect』
<https://tokyofreshdirect.com/>



同ECサイトの機能拡張に関するリリース
<https://weagri.jp/news/20251202>

テックファームグループ 会社概要

テックファームホールディングス株式会社

資本金： 1,000百万円
連結社員数： 305名

ICTソリューション事業



テックファーム株式会社
(出資比率:100%)

資本金： 100百万円
社員数： 269名

カジノ施設向け電子決済
ソリューション事業



Prism Solutions Inc.
(出資比率:100%)

資本金： 3,088米ドル
社員数： 1名

クロスボーダー流通
プラットフォーム事業



株式会社WeAgri
(出資比率:73.0%)

資本金： 95百万円
社員数： 9名

人工知能・データサイエンス技術
研究、開発



株式会社ギャラクシース
(出資比率:34.0%)

資本金： 17百万円
社員数： 17名

リフォーム業向け業務支援
ソリューション事業



株式会社SANKI TECH
(出資比率:14.0%)

資本金： 30百万円
社員数： 7名

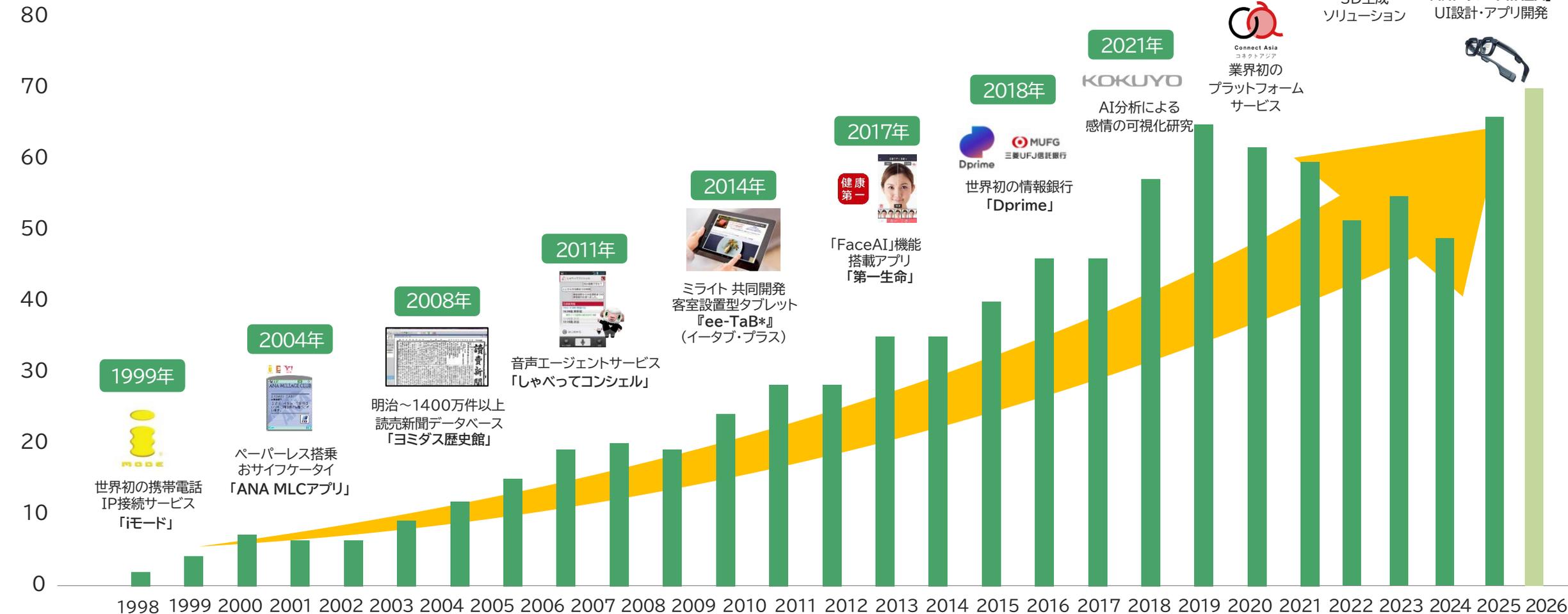
※非連結会社

※非連結会社

沿革

世界初、日本初、業界初等の先進的な”未来づくり“に挑戦

売上高
(億円)





TechFirm

本資料は、テックファームホールディングス株式会社(以下「当社」)が当社及び当社グループ会社(以下「当社グループ」)の企業情報等の提供のために作成したものであり、国内外を問わず、当社が発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。本資料に記載されている当社及び当社グループに関連する見通し、計画、目標等の業績予想や将来予測につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの将来見通しと大きく異なる場合があります。